

令和二年度 大阪国税局長賞

「キャッシュレスと税」

西大和学園中学校 三年 西井 百花

「消費税が高くなる分、ポイントで還元されるの？」

一年ほど前、テレビのニュースで知って驚いたことを思い出した。

世間は今、先の見えない新型コロナウイルス感染症対策が話題を独占している。この時代の流れの中で、現金に直接触れずに支払いができるキャッシュレス決済が、「再び」注目されている。「再び」というのは、昨年十月の消費税率引き上げに伴い、キャッシュレス決済ポイント還元制度がスタートしていたからだ。

この制度は、何度か延期されてきた消費税率引き上げへの世間の理解と、消費の活性化や世界的にも遅れているキャッシュレス化の推進という、複数の目的を持ち合わせており、うまく考えられていると感じた。改めて、税金の重要性とキャッシュレス化について考えてみた。

去年、私は学校の職業体験で製薬会社を訪れ、薬の開発や製造を行う様子を見学した。ここでの日々の研究が、多くの人々の命を救う、日本の高度な医療技術を支えているのだと実感した。それと同時に、医療研究には少なからず国から補助金が支給されており、この補助金は国民や企業が納めた税金から支出されているということを知った。

新型コロナウイルスのワクチンや治療薬の研究が国内でも急ピッチで進められているが、これにも税金が関わっているのは当然のことである。国民が税金を正しく納めることが、結果的に自分自身の命を正しく守ることにつながるということを、改めて認識しなければならないと痛感した。

新型コロナウイルス感染症対策として、生活面で様々な社会的制約が生じている。この状況をプラスに捉え、税金を投入して施策を進めることも必要である。感染防止に有用なキャッシュレス社会もその一例だ。以前から普及しているクレジットカード決済に加え、最近ではスマホを利用したキャッシュレス決済が多様化している。私はまだ利用したことはないが、できる範囲で活用してみたい。

私の父の話によると、税金の納付についてもキャッシュレス化が進んでいるようだ。電子納税やダイレクト納付などの方法があるそうだ。私も将来、納税者になった際には積極的に利用してみたい。

新型コロナウイルスとうまく付き合いながら生きていく「ウィズコロナ」において、医療の充実やキャッシュレス化の拡大は大きな注目を集めている。これを実現するためには税金が必要であることをしっかり認識し、税金の正しい仕組みを深く理解して、国民が幸せな生活を実感できる世の中になるよう貢献していきたい。